



# 移住体験「ちよつと暮らし」

## 稚内に住んでみませんか？

### 移住・定住を検討して

いる道内外の方に対して、市では短期の移住体験ができる「ちよつと暮らし」を実施しています。

この制度は、閉校となった学校の旧教員住宅を再利用しているもので、下勇知と西浜に2棟を開設し、積極的に受け入れを行って

います。時期によっては地域の皆さんの協力もいただき、地元の方への参加や産業体験なども行っていきます。今年は2年目となりますが、全国的な移住イベントやホームページなどPRを行っていることもあり、申し込みや問い合わせが増えています。

体験者の方からは感想のほか、様々な意見をいただいております。稚内の、のどかな風景がある酪農・漁村地域での移住体験は、好評をいただいておりますが、実際に移住・定住を考える場合、夏場の避暑地として

えてきています。

体験者の方からは感想のほか、様々な意見をいただいております。稚内の、のどかな風景がある酪農・漁村地域での移住体験は、好評をいただいておりますが、実際に移住・定住を考える場合、夏場の避暑地として

### 体験者に「ちよつと」聞いてみました

#### ②高知県の石田さん



体験期間 1ヶ月(西浜) 避暑地として体験移住した石田さん。「高知はとも暑いので、涼しい稚内でのんびり過ごしたい。」とのこと。西浜の漁師さんに初めての昆布干し体験をさせてもらい、「とても貴重な体験ができました。」

#### ①広島県の古田さんご夫妻

体験期間 1週間(下勇知) 地元のお祭りにも参加した古田さん。「地域の皆さんと触れ合えたのは心温まるものでした。自然環境や街の様子、食など魅力がたくさんありました。冬は生活は不安があるので、広島と稚内を季節で交互に住む2地域居住なら考えたい。今後、稚内の魅力を発信して応援していきます。」



季節滞在をしたい、仕事をもって定住したいなど、年齢層によって求める生活環境が異なることから、今後、移住希望者の要望に合った受入体制の拡充を図っていく予定です。

ちよつと暮らしで稚内の

よさ・住みやすさを少しでも実感していただき、一人でも多く「移住・定住」に繋がっていくよう、今後取り組みんでいきたいと考えています。

お問い合わせ市地方創生課

### 希望と夢を運ぶ渡し船に

#### 8月

月から再開されたサハリン航路は、ホルムスク市の船会社「サハリン海洋汽船(SASCO)」が主体となって旅客船「PENGUIN(ペンギン)33」(270トン)を運航するもので、稚内側については、4月に設立された「北海道サハリン航路株式会社」が総代理店として予約業務等を行っています。船内は座席が80席の双胴船で、コルサコフ・稚内間をこれまでのフェリーより1時間

早い4時間30分で結ぶ高速の旅客船です。初便となった8月1日、関係者が見守る中、稚内港へ入港し、国際ターミナルに到着。この日は波も穏やかで、快適な船旅だったとのこと。埠頭では、船から降り立った乗客の皆さんを歓迎の横断幕と「出汁の介」などが迎え、乗客となったユジノサハリンスク市からの家族も大喜び。続いて行われたセレモニーでは、稚内市から船長ら乗務員に「北海道とサハリンの希望と夢を運ぶ渡し船に」とのメッセージと共に花束を贈りました。この航路は今年度は週2往復(稚内発は火・金曜日)で、9月16日まで運航されます。



お問い合わせ市サハリン課

### こんにちは 市長です。

No.35



### 「歴史とともに歩むサハリン航路」

戦後、途絶えていたサハリン(旧樺太)との交流が、当時の市長や議長などのネベリスク市訪問によって再開されたのが1972年(昭和47年)で、この年からネベリスク市を中心に親善交流を続けてきました。その後、墓参や青少年交流のためのチャーター船が、稚内港を発着し、本市からも多くの方がサハリンとの交流に尽力されました。1991年のソ連崩壊を契機に、将来の経済活動のパートナーとして、資本主義を学んでもらおうと、1994年から稚内商工会議所が中心となって、サハリンの友好都市3市から企業研修生を本市に招いています。今も続くこの取り組みは実践的な交流の成功例として、特筆すべきものと思っています。

そんな中、1995年の稚内・コルサコフ間の定期航路再開を受けて、ロシアチャーター船が就航。1999年からは当時の東日本フェリーが本航路に進出し、昨年度まで運航を継続したことは、記憶に新しいところです。

極東開発に力を入れているロシアにとって、北海道との架け橋ともいえるサハリン航路は、我々同様、サハリンにおいても重要であり、今回サハリン州知事の肝入りでロシア船が就航することとなり、8月1日から運航を開始しています。

国境に位置するこのまちの将来を思い描くとき、国の外に向かう発想は不可欠であり、ロシア極東と一衣帯水の地にあって、運命共同体として連携することは、地域の発展に大きく貢献するものと信じています。

是非、市民の皆さんのご理解をお願いしたいと考えています。

稚内市長 工藤 広